1.研修を通じて印象に残ったこと、思ったこと、学んだこと

1) 「なぜ幸せな学校が必要なのか：学習の中の幸せ、学習のための幸せに関する国際報告書」(ユネスコ、2024)は、幸せな学校のグローバルフレームワークを提示し、その第一の基準を「支持し、協力する関係」としているが、日本の教育現場における学校と教育委員会の関係、学校内の管理者と教師の関係、同僚教師間の関係、教師と生徒の関係、教師と保護者の関係を見て、教育が「共同財」として共に作り、共に享受する産物であることを再確認することができた。

2) 何が学校での幸せなのかということを継続的に考えるようになった。学習の過程には辛く苦しい側面もあり、それも教育の一部であることは明らかである。教育における幸せが持つ多層的な意味を継続的に再解釈していく必要がある。

3) インサイダーとしての視点から、日韓両国の共通点と相違点を理解し、多様性と尊重の価値を促進することの重要性を改めて感じることができた。

2. 日本で得た経験とネットワークを活用した今後の活動及び教育実践計画

(2月)ユネスコ韓国委員会ウェブサイト及びニュースレターを通じて日本招へい研修の経験について寄稿 https://unesco.or.kr/250220_01/

(3月) 「Happy Schools」をテーマにユネスコ韓国委員会内部情報誌に寄稿

(3-11月) ユネスコスクール国際交流の活性化のために「2025 Korean ASPnet Exchange Project」推進
https://drive.google.com/file/d/1tBp74r9htLYuXqHoSxR-af0tX6EdO-YZ/view?usp=sharing

(3-8月) 日韓招へいプログラムのフォローアップ交流活性化のための研究推進

(6月) 日韓国交正常化60周年を記念して日韓友好のためのメディア寄稿を実施

(7月) 2025年日本教職員韓国招へいプログラムの開催及び日韓教職員間の交流を積極的に支援

(10月) 2025年の日韓教職員交流の経験を総括した報告書を発刊

印象的だった点

01
生徒中心の文化

HR（終業）時間を活用した学習の共有及び反省
学年転換期の適応支援制度の準備
個別化教育計画を積極的に
反映した適応型学習

+

02
保護者の参加文化

教師と保護者間の協力的な関係形成
保護者が学校の運営に参与し教師と協力する雰囲気

+

03
共同体意識教育

生徒主導的な活動の準備
皆で掃除する時間を通じて愛校心の形成

Comment　韓国の2022年改正教育課程で強調している進路連携学期教育及び特別支援学校教育課程の日常生活活動と連携して活用できるような方法を模索すれば効果的であると判断。

2025. 韓国教職員招へいプログラムアクションプラン

日本教育の洞察をもとに、私たちの学校の未来を設計する

アクションプラン

教育共同体
協力体系強化

東京都立小平特別支援学校との交流
（オンライン交流+カルチャーボックス交流）

＋

教職員ワークショップ
（日本教育事例の共有+
日本との交流協力関係構築）

＋

進路連携教育課程の設計
（日本の転換期教育事例を応用）

多様な社会的
価値の創出
BUSANSUNGWOO

日韓交流を通じた継続的な学習と成長の機会の創出

研修で印象的だった部分、学んだこと、感じたこと

日本の生徒たちの自律性と規律を重視する点が印象的だった。日韓教師交流を通じて教育経験を共有しながら両国間の友好を深めることが出来た。

文化の違いを理解し克服する過程で教育は重要な出発点になる。教育を通じてお互いに異なる文化に対する正しい知識を積むことができ、これをもとに偏見をなくし、違いを理解する態度を育てることが出来るだろう。

アクションプラン

・学校内の教員学習コミュニティで共有

・学校の自律時間で世界市民教育、国際理解教育の資料を活用

・日本及びその他の国との交流活動の推進

01｜ 研修の感想

研修で印象的だったこと/思ったこと/学んだこと

⭐ 教育環境における違いと共通点の発見

日本の学校の秩序ある雰囲気、伝統を尊重する姿、生徒の主体的な姿勢が印象的だった。単純な比較を超え、自分の教育理念や方向性を確立するきっかけとなった。

⭐ 国境を越えた教育者としての連帯感

日本の教師たちと教育についての悩みを共有し、教育が平和な未来のための鍵となることを実感。教育者として重視する価値観が似ていることを確認し、より良い未来のための協力者として連帯感を感じる。

⭐ 交流体験がもたらす希望

文化授業や家庭訪問を通じて、言語や文化の違いを超えて心を通わせることができることを経験する。交流活動を通じて、学生が世界を見る視野を広げ、多様な文化や価値観を尊重する態度を養うことができるという確信を得る。

02 | アクションプラン

日本で得た経験とネットワークの活用計画

専門的な学習共同体

世界市民教育の活性化方策について研究する専門的な学習コミュニティで、日本での経験を共有しこれを教育に活用できる方策を提案及び協議

世界文化祭

学生たちに交流を通じて学んだ日本の伝統的な遊びを紹介し一緒に学んだ後、学校の世界文化祭で日本ブースを設け、運営する。

世界文化遺産の部活

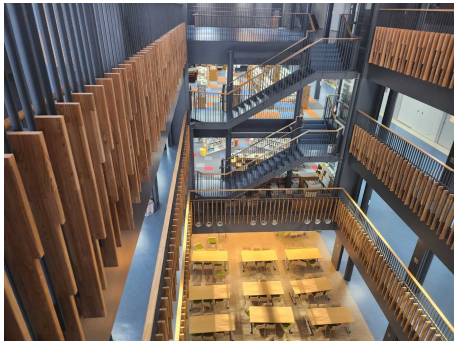
日本の世界文化遺産「法隆寺」探訪で得た歴史と文化的知識を活用して世界文化遺産サークルを結成

日韓教師交流の経験

01 学校訪問

田辺中学校

王子南義務教育学校

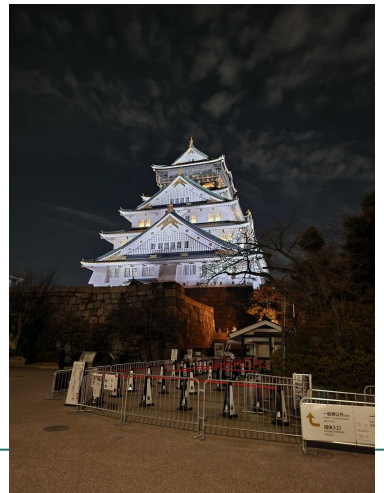


王子北義務教育学校

02 ホームビジット

03 文化財踏査

法隆寺



大阪城

アクションプラン(Action Plan)

01 生徒(5年生)対象のカリキュラム連携活動計画

教科	カリキュラム達成基準	活動内容
社会	[6社01-01]韓国の位置と領域が持つ特徴を説明し、それをもとに国土を愛する態度を養う。	韓国と日本の地理的位置と領域が持つ特性を比較しながら把握する。
	[6社01-04]韓国の自然災害の種類と対策を探求し、それに関連する生活安全を実践する態度を持つ。	地震発生の原因及びそれに関連する生活安全のための実践案の提示
生活	[6実03-02]時間という資源の特性を知り、正しい時間管理方法を探求し、実生活に応用する。	韓国と日本の学校生活を比較する。
	[6実02-02]成長期に必要な間食の重要性を理解し、おやつを選んだり、作ったりすることができ、その際に食生活の作法を用いる。	日本の食文化と食事の作法を学び、日本のおやつたこ焼きを作ってみる。
音楽	[6音02-02]様々な文化の音楽を聴き、音楽の特徴について発表する。	韓国の童謡を日本語で歌ってみよう。
体育	[6体04-01]世界各国の伝統的な民俗表現の種類と特徴を探る。	日本の遊び文化体験(けん玉、オセロなど)

02 教員学習共同体を通じた同僚教師との共有

1) 写真を通じた研修経験の共有(学校訪問、家庭訪問、法隆寺探索など)

2) 日本の義務教育学校制度化の背景を探求し、韓国の小中等統合学校が参考にすべき点を研究

3)学生の非認知能力向上のための教育方法探求及びハッピースクールについての議論

1.日本の〇〇中学校との交流事業を準備する

1)日韓両校の教育課程を共有し、スケジュールを立てる

－ユネスコ韓国委員会推薦必須

2) 両国の学校紹介及び学生を紹介する

－オンラインを通じて相互の挨拶と交流を行う

3) 特定の教科時間(社会、歴史、英語)の活用

オンライン授業の共有の時間を設ける

2.両国の学校間の文化交流活動を始める

1）韓･日学校間の文化交流活動

-オンライン、オフラインの並行準備及び実行

2）教育課程の動画作成及び交流した友達と手紙交換

3）年2回(1、2学期)両国の協議後、発表する。

- 両国の教育課程を考慮した進行が可能

研修を通して…

- **印象的だったこと**:日本の団体文化と礼儀正しさが際立つ様子。
- **考えたこと**:日本の人々の温かさや学びを感じ、このような前向きな交流をもとに、今後さらに交流を深め、お互いの理解を深めていきたいと考えます。
- **学んだこと**:‘ハッピースクール’のために、学業も大切だが生徒の様々な人との交流など、より広い経験や自信など、非認知的な能力を教師が促進していかなければならないと考えた。

アクションプラン

25年 3月	25年4～12月	26年 3月～
東京の佼成学園女子高等学校の国際交流担当教員2名が25年3月17日～19日、ソウルを訪問予定。 3月19日に貞媛(チョンウォン)女子中学校を訪問見学し、教師間で今後の交流の方向性及び内容について協議。	協議された内容をもとに、日本校の「Global Course」の生徒と貞媛(チョンウォン)女子中学校の「グローバルリーダークラス」の部活の生徒との交流 (ex.「気候危機」のような国際的なテーマを中心に、環境保護を促す絵本を一緒に作るなど)	“ Global Course ”の生徒たちが26年3月11日～14日に韓国へ修学旅行に来る予定です。 その時期や他の時期に対面交流を行い、お互いの文化を紹介し、親睦を深める活動を行う。

アクションプラン　ー　日韓教師交流

□ **交流テーマ：**言語・文化・持続可能な発展交流を通じた平和の教室づくり
□ **交流目標**
◦既存の交流活動を通じた経験を活用し、済州・日本の学生との相互交流が必要。
◦学校間の国際交流を通じた外国語能力の向上、文化交流、国際的な知識の向上。
◦IB校、多文化教育政策学校、村教育共同体先導学校、デジタル教科書先導学校など、学校内の様々な事業に対する外国学校との共有。

□ **交流の原則**
◦アジア太平洋国際理解教育センターの世界市民教育テーマ及びソウル多文化教育センター(ダオンセンター)が編纂した世界市民教育テーマを再構成し、オンライン授業の交流テーマとして使用する。
◦ 概念基盤の教育課程に基礎を置いたテーマの選定及び授業の実施。
◦両国の言語及び英語を国際交流授業で使用する。

□ 非対面交流活動計画

—オンライン韓国-台湾（マレーシア）世界市民教育プロジェクト

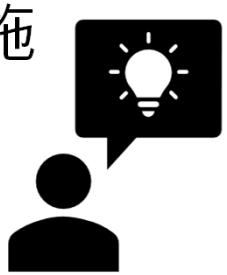
ア. 概要：世界市民意識を持つための知識情報と批判的リテラシー、多様性、倫理的責任感を学習するための両国間の世界市民教育プロジェクト学習。

イ. 参加学生: 甫木小学校5～6年生の学生

試み	日付 （変更可能）	回数	オンライン方式	テーマ
1	4月上旬	1/6回目	リアルタイム	韓国・日本の歴史と文化を理解する ☞ 文化相対主義の視点を把握する ☞ 各国の主な名詞、伝統行事、食べ物、衣服を紹介。
2	5月中	2/6回目	リアルタイム	韓国と日本の言語とコミュニケーション ☞ 中国語/英語/韓国語などの基本的な挨拶や表現を覚える ☞ 言語が文化に与える影響を探る
3	6月末	3/6回目	リアルタイム	韓国と日本の社会と生活文化 ☞ 各国の日常生活と社会的規範を理解し、生活文化の違いを知る。 ☞ 各国の学校生活、公共交通機関、住居環境の比較
4	8月末	4/6回目	リアルタイム	韓国・日本の環境と自然保護 ☞ 各国の自然環境と保護への取り組みを知り、持続可能な発展のための世界市民教育の役割を探る ☞ 各国の自然保護活動の研究発表を行う
5	9月中	5/6回目	リアルタイム	韓国・日本の経済とグローバル化 ☞ 各国の自然環境と保護への取り組みを知り、持続可能な発展のための世界市民教育の役割を探る ☞ 各国の自然保護活動の研究発表を行う
6	10月上旬	6/6回目	リアルタイム	世界市民としての役割: 相互尊重と協力 ☞ 国間の文化的・経済的な協力方法を探る ☞ 国際交流の重要性を議論し、実践方策を探る

アクションプラン– 日韓教職員交流

1.日本のクラスとリアルタイムオンライン共同授業実施
2.韓日文化質疑応答形式のパドレットの運営
3.日韓交流発表会の開催
4.韓国と日本のメディアリテラシー教育現況の研究
(Youtube、Instagramなどのメディア使用実態の共同研究)



アクションプラン– 日韓生徒交流

1. 手紙を書く
2. 韓国と日本の童謡を相互言語に翻訳して歌う。
3. 韓日伝統遊びを学ぶ(福笑い、コマ、けん玉など)
4. 日韓アイスバケットチャレンジ(リレーチャレンジ)
   - 映画Pay Forward(美しい世界のために)
5. 星光（ピョルピッ）小学校の世界市民教育ハイクラスを通じた学生交流の成果のPR

研修の感想

2025日韓教師交流プログラムの日本の学校見学、日本の家庭訪問、日本の文化交流を通じて、印象に残ったこと、思ったこと、学んだこと

印象的だったこと

日本の学校の体系的なシステム
制服文化、清掃文化

考えたこと

コミュニケーションする教師文化
不登校生徒への対応策

学んだこと

生徒への熱意を持った教師
創造性と基礎基本に忠実な教育

教育実践計画

研修を通じて得た経験を学校内、学校外、在外韓国学校などで積極的に活用する計画

学校内
教師、生徒対象の交流経験の共有。
日本の学校の生徒と韓国の学校を比較できる授業プログラムを実施。

学校外
専門的な学習共同体での交流経験の共有。
国際交流のための様々な研修の実施。

在外韓国学校
創造的な体験活動資料制作資料開発後、在外韓国学校への普及

Action Plan

印象に残ったこと
考えたこと
学んだこと

● 印象的だったこと

✓ 訪問機関の教職員と生徒が韓国教職員の訪問を期待し、心から歓迎してくれた点

✓ 旅行では知り得なかった日本の学校現場、生徒、教職員、保護者との交流ができた点

● 考えたこと

✓ 小中一貫学校を訪問し、小さな学校、生活指導、学校と地域社会の共存など、韓国の教育現場の問題点を解決する一つの方法かもしれないと思った。

● 学んだこと

✓ 規律、手順を遵守する過程においても、お互いの尊重と配慮が調和し、幸せな学校を作っていた。

✓ 学生の自律性と教育需要者のニーズを重要視する韓国の教育現場で発生している一連の問題について、良い示唆を与えてくれた。

Action Plan

今後の活動
および
実践計画

- 機関内にて訪問経験の共有

✓ 日本の教育現場を訪問して感じた感想を部署の職員と共有する活動

✓ 日本の教育政策と革新のための教育関係者たちの意志を共有する活動

✓ 日本の文化、伝統、教育に関する交流活動

- 教員と共有

✓ 教員対象協議会などで日本教育現場訪問の経験を共有する。

✓ 日本の教育課程、学校の施設や教育環境についての訪問経験を共有する。

✓ 日本の学生、教員と交流することで得た知識や共感を共有する活動

日韓教職員交流の感想

●**印象的だった点**

１．小さい学校の克服

—両国は**少子化による地域及び学校崩壊という課題点**を持っている

⇒義務学校というシステムにより**地域内の小・中学校過程の学校を統合**

⇒⇒統合された学校を中心に**学校のインフラを整備して予算を集中させ満足度を上げる**

２．学校級間の転換期（小・中）適応

—小・中学校転換期と思春期などが重なって**学校級の転換期においての適応**に苦しんでいる

⇒５～７年生の間の段階の生徒を充実期に設定して**部活動参加、教科担任制などを経験させて、中ーギャップを解消**する

●**考えたこと**

—義務教育学校の運営の成功を見て、**小規模な学校の統合は地域の崩壊という考えの変化**があった

●**学んだこと**

１．**小さい学校の克服：**小規模学校の統合を通じて**教育インフラを集中させ教育条件の改善**を図れる

２．**転換期教育：**学校の変化と思春期が重なる**重要な時期にダメージを少なくするプログラムの開発**が必要

３．**日韓の教育交流の拡大：**韓流を通じてお互いの関心が増している近頃、**学校—教員—生徒間の持続的で多角的な交流プログラム**運営の機会を創出

共有及び実践の方策

●日韓両国の理解教育の目標

—日韓両国の歴史と文化について理解を広げ体系化する
—日韓両国の文化の違いを把握し捉え直す能力を養う
—日韓両国の相互理解と協力に努めるグローバル人材の養成

●日韓両国の理解教育の方法

—慶南ウィリョン郡地域は**小規模学校間の共有教育を実施**しており**６年生社会科に研修内容を追加**
⇒簡単な日本語学習を通じて**日本の社会文化についての視点を養う**
⇒撮影した写真をもとに**日本の学生の学校生活について理解し共感の領域を形成**する
⇒教師間の交流内容をもとに**日韓両国間オンライン学生交流を実践**する

●経験の拡散及び共有

１．**教職員研修の実施：**学期はじめに専門的な学習ネットワークを通し日本で得た経験と資料を共有
２．**違いを認めるマインドの拡散：**相互文化の共通点と違う点を理解して違いを尊重する態度を養う

ユネスコ日韓交流研修の感想

印象的だったこと

1. 日本の義務教育制度 - 小・中学校を統合し学校レベルを超えた一貫した教育を推進した点。
2.伝統を重視し、教育で継承しようとする点。（茶道、伝統舞踊など）
3. 生徒の自治活動と自律的な責任教育文化。
4. 生徒サークル活動(部活動)の活性化。
5.不適応学生のための快適な別空間を用意したこと。

考えたこと及び学んだこと

1. 学校レベルの転換が柔軟に行えるよう、連携プログラムと統合学校モデルを開発。
2. 学生の自律と責任を養うことができる教育方針を実施する。
3. 伝統を受け継ぐ教育の実施。
4. 不適応学生のための独立した空間と指導方法を模索する。

アクションプラン

1

韓国・日本交流発表会

日韓交流の内容を全教職員の前で発表し質疑応答の時間を持つ

2

教育課程の連携/授業

6年生の社会･世界文化単元と連携して、日本の歌や伝統的な遊びを紹介します。日本の歌、伝統遊びを紹介し日本交流研修の成果を生徒にPR

3

多文化活動

学校に在籍している多文化の学生と文化紹介活動を行い、特に日本文化交流研修の経験を活用し、学級単位ではなく、全校生徒単位での 多文化体験活動を実施

日本研修を通じて学んだ日本の教育事例や文化体験をもとに ジンガ小学校の教職員、全校児童に学びを分かち合う

2025 韓国教職員招へいプログラムの感想

印象的だったこと

1. 王子南義務教育学校の小中連携教育システム
2. 王子北義務教育学校の近代的な施設
3. 寒い冬でも短パンを履いて登校し、野外で体育活動をしている様子
4. 床掃除をする生徒の様子
5. 田辺中学校の素朴な給食と静かに食事をする生徒たちの様子

考えたこと

1. 韓国と日本の教師に対する待遇、権威などの違い
2. 韓国と日本の学生の人権、自律性、文化の違い
3. 韓国と日本の不適応学生に対する指導方法の共通点と相違点
4. 韓国と日本の教育課程の先進化程度

学ぶこと

1. 基本教育、礼儀作法教育に忠実な教育文化
2. 節約精神と伝統文化への愛着のある姿

2025 アクションプラン

アクションプラン

経験の交流

1. 転校生を通じた日本の学校文化の伝承
2. ユネスコサークルの学生に日本の学校文化伝達及び日本の伝統文化紹介

ユネスコ部活動計画

1. ユネスコサークルの学生を対象に日本の伝統文化の授業を実施
2. ユネスコサークルの学生のうち希望者に日本の学生と交流できるよう指導

世界市民教育

1. 日本の節約文化：省エネキャンペーンと連携
2. 日本の給食文化：残飯ゼロキャンペーンとの連携
3. 多文化：日本文化紹介

印象的だったこと

- 小中一貫義務学校を訪問

-人口減少現象に直面している韓国の教育政策に新たな視点を提供する。

- ホームビジット活動

-日本の家庭文化を直接体験し、文化の違いを理解する。

-教育に対する共通の悩みや、私教育に対する認識を共有する。

- 不登校の生徒への支援

-日本の教育現場における不登校問題の解決に積極的に取り組む。

- 日韓教師の交流

-教育方法や生徒指導・躾について深い対話を行う。

-様々な教育方法や文化の違いを直接体験し、文化交流の必要性を認識

アクションプラン

- 日本の学校との交流プログラムに申請して交流を行う。

–遠隔授業及び様々なコミュニケーションツールを通じて相手校と交流する。
–部活動部員及び一般生徒がより多く参加できるようにプログラムを構成

- 経験の共有

–研修経験を仲間の教師や生徒と共有し、授業に適用できるように授業を設計する。
–ユネスコ文化遺産探訪を通じて文化遺産保存の重要性を共有する。

- グローバル教育の強化

– 生徒中心の交流の活性化
–世界市民教育の拡大と視野を広げるための様々なプログラムを用意する。

ユネスコ日韓教師交流アクションプラン

研修後の感想

私たちと異なる点

学校運営委員会がない。
不登校と登校拒否の概念を区別している。
小中一貫の義務学校運営
- 学校級が変わることで生じる生徒の揺れを円滑にするための努力

80%以上の生徒が部活動に参加している。
(中学校から可能であることに驚いた)
秩序と統制が取れている感じ
(3年生の教室の掃除分担表、 学校内を分担して掃除をする生徒たち)

個人的な感想

1回限りのチャンス: 自分に合った活動をする。
2回の授業
- 楽しくついてきてくれてありがとうございました、お笑いタッチの日本語を教えてくれた現地の教頭先生(もっと外国語の勉強を頑張ります!!)

3度の学校訪問
- 共通点と相違点を探す。

4水遊びを見て感じた感動
-韓国的なことをもっと知りたい、伝えたい。
5泊6日の忘れられない思い出
(スペースが狭くて書けません)

ユネスコ日韓教師交流アクションプラン

アクションプラン

01

教職員協議会の活用
ユネスコ日韓教師対話に関する活動内容を発表予定
（必要に応じて専門的な学習のコミュニティを活用）

02

教師間の交流の実施
・本対談を通じて知り合った先生方とのSNS交流及び共同授業の推進
・学校内の教師とのつながり
（例：日本人ネイティブ教師
-本校英語専任教師）

03

企画活動
・日本の伝統遊び体験
(けん玉、ぼうずめくり)
・イチョン地域ニュースポーツを伝える
(ライスホール:映像撮影など)
・スポーツクラブ交流
- 学校内スポーツクラブ
<-> 日本の地域のクラブ活動(または家庭訪問を通じて知り合った学生野球選手/映像共有を通じたオンライン練習)

日韓教師交流研修

日本訪問

田辺中学校, 王子南義務教育学校訪問
ホームビジット、教員交流

両国共通の解決課題

日本の学校訪問、ホームビジット、教職員交流を通じて、日本の学校が抱えている「不登校問題」を知り、それを「義務教育学校」などを適用し、日本政府が努力していることを知った。韓国でも「不登校」問題が深刻化しており、協力して解決する必要性を感じた。

Happy schools

「Happy schoolsとは何か」というテーマで、日本の先生方と一緒に話を交わしながら国を越え、教育現場で似たような問題があるので、学校で発生している問題解決策を議論し、「Happy schools」のために一緒に考えてみて、お互いの経験を共有し、方向性を一緒に考えた。

日韓関係の未来

最近、日本が好きな韓国の学生が多いように、日本でも韓国が好きな学生が多い。未来世代の子供たちを通して、韓国と日本がより近くなることが期待される。日韓の学生の国際交流を通じて、このような前向きな関係を持続していけるよう、教師の役割が重要だと思う。

[アクションプラン]

今後のアクションプラン

オンライン授業

韓国と日本の文化を学生が直接紹介するオンライン授業交流の実施

教員コミュニティ運営

教師コミュニティを通じて今回の交流に関連する情報の共有

共同授業構想

気候変動問題について、日本の教師と協力して授業を構想する

日本文化体験

学生会と連携し、朝の登校時間を利用した日本文化体験の日を運営

日本で得た経験とネットワークを活用したアクションプラン

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

Korean
National Commission
for UNESCO

2025 日韓教職員交流アクションプラン

昌寧大城(チャンニョンデソン)高校

日韓学生　国際交流活動

- 日本の山形県立米沢興譲館高校と国際教育交流の継続
- 慶尚南道教育庁の国際教育交流活動に参加

昌寧大城(チャンニョンデソン)高校

国際文化理解教育

- 校内日本文化体験学習の実施
- 日本関連書籍の読書活動の実施

昌寧大城(チャンニョンデソン)高校

ユネスコスクール活動の普及

- ユネスコ学校活動週間を運営
- 全教職員への活動の共有
- グローバルビジョントリップを通じた私立学校財団内の学校への普及

Thank you!

2025韓国教職員日本招へいプログラム
上半期アクションプラン

01 授業活動及び研修

02 国際交流活動

03 部活動

授業計画

世界市民教育及び多文化教育教材を活用し、文化探求及び世界市民関連イシューを中心にプロジェクト授業を実施

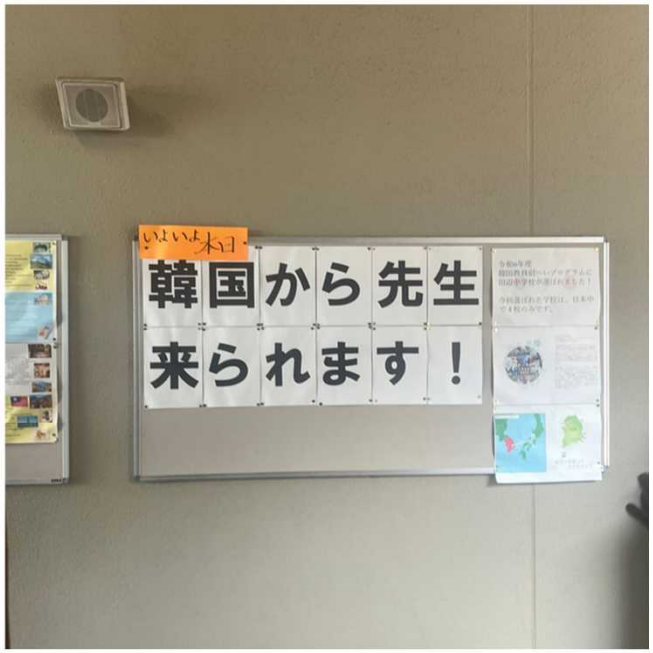
校内自主研修

研修経験の共有及び新しい概念(義務教育学校)の紹介

国際交流活動

姉妹提携学校訪問及び文化言語交流プログラム運営

日韓教師のネットワークを活用した継続的な教育・文化関連情報交換



部活動

- 世界市民サークル、ビデオ国際交流、英語教科関連サークル活動を基盤とした日韓文化プロジェクト活動実施
- 国別体験ブース活動
  多文化学生活用
  体験活動Day開催

日韓教師交流参加者感想

1. 印象深かった点

- 日本の**小・中統合学校システム(王子南義務教育学校、王子北義務教育学校)**
  - 学校級の移行期における学生の揺れを支援する体系的なサポート。
- 生徒の**自律的な責任教育文化**
  - 学校運営に対する生徒の積極的な役割
- 日本の保護者の**学校参加及び教師を尊重する文化**
  - 学校と保護者の協力的な関係が生徒教育にプラスの影響を与えている。

2. 考えたこと

- 学校レベルの移行期における**学生の円滑な適応を支援するための体系的な教育支援の必要性**
- 共同体意識を育むための**学生主導の活動拡大の可能性**
- 韓国でも**教師・保護者・学生間の協力的な教育文化**の形成が必要である。

3.学んだこと

- **移行期教育の重要性**： 小6～中1連携プログラムの開発が必要
- **学生中心の教育運営**：責任感と自律性を養うことができる制度導入の検討
- **日韓交流拡大の必要性**: 教師及び学生間の持続的な交流の機会の確保

日韓教師交流　共有と実践方策

1.目的

- 日本の学校訪問の経験を共有することで、教師が日本の教育システムと文化を理解できるようにする。
- 学校レベルの移行期教育、共同体意識教育、保護者参加文化などを校内教育環境に適用する方法を模索する。

2. 共有の仕方

- 教員向け報告会実施（2025年度新学年準備週間）
  - 日本の学校訪問の経験と主な学びを共有
  - 写真や映像資料を活用し、リアルな臨場感を提供
- サークルのプロジェクトテーマとして活用(ユネスコスクール担当教師及びサークルの生徒)
  - サークルの生徒と一緒に生徒自律性及び責任感を向上させるプログラムを開発する。
  - サークルの生徒たちと一緒にオンライン交流の方法を模索(インスタグラムなど)

3. 期待できる効果

- 教師たちが日本の教育事例をもとに、新しい教育方法を模索し、適用可能性を話し合う。
- 学校内の協働を強化し、日本教育の良さを反映した教育実践案の作成
- ユネスコサークルの学生によるプロジェクト活動を通じて、学校文化への理解を深める。

1. 研修の感想

研修を通して印象深かった点、考えた点、学んだ点

人間的な交流を通じて感じた連帯感

- 訪問機関（王子南・北義務教育学校、田辺中学校）、ACCU、ホームビジット、すべてに心からの歓迎と全身全霊での準備に対し深い感謝の気持ちを感じる。
- 単純な観光では経験できない特別な経験—ホームビジット、日韓教職員対話、給食体験、日本の生徒たちとの文化交流及び授業—を通して日本(教育)文化を深く理解する時間を持つことが出来た。
- 言葉が異なっても通じる意味とつながる気持ちにお互いがつながっていることを感じた。
- 今後も協力的なパートナー関係が民間の次元でつくれるように未来世代の生徒たちに日韓関係についての客観的で合理的な観点と友好的な態度を教育するためどんな教育的努力が必要なのかについて悩みが生まれた。

学校教育の側面

- 不登校の生徒の問題(別の学習空間にて可能な範囲で登校)、学習格差(チームティーチング)、中ーギャップのような問題に対応する様々な教育的方策が印象的だった。
- 小さい地域で義務教育学校が中心となり地域社会市民に子どもたちを成長させるための地域社会連携教育が印象的だった。
- 礼儀正しく秩序があり健やかな生徒たちの態度が印象的だった。思ったよりも厳しい校則や子どもたちが規則の中で明るく積極的に生活している様子が印象的だった。
- 学年間の交流が活発に行われている様子とそれによる教育的効果が新鮮だった。

2. アクションプラン

日本で得た経験とネットワークを活用した今後の活動及び教育実践の計画

1）校内外での研修経験の共有

- 校内教職員対象研修経験共有(～3/14)
- 運営中のオンラインプラットフォームに研修後記を掲載

2）日韓学生オンライン交流の推進

- 1/25日韓教師交流会で連絡先を交換した杉森中学校の先生と学生オンライン交流を進める
- 一学期間1：1活動の後ZOOMで画面交流計画議論

3）多文化教育の試行

- 多文化教育週間　日本伝統遊び体験
- 日本文化簡単クイズを通して該当文化がなぜ生まれたのか相対主義的観点で理解

4）教科授業との連携

- 中学校3年生対象社会2VI.国際社会と朝鮮半島の単元をつなぎ相互依存性の基盤連帯の重要性を学習

アクションプラン

１．韓国、日本の教職員交流

―研究する（ex.教育課程、学校文化などの研究）。

―多文化の日を決めて日本文化を体験する。

―授業見学する。

―発表会の開催

（各学期別１回以上事後活動の発表を行う。）

アクションプラン

２．韓国、日本の学生交流

—手紙を書く、SNSでの交流(インスタグラム、フェイスブックなど)

—日本語、韓国語を学ぶ。

—伝統の遊びを学ぶ(福笑い、コマなど)。

—韓国文化の紹介動画の撮影、編集

印象的だったこと

ホームビジット

- 日本の家庭文化を直接体験し、文化の違いを理解する。
- 教育に対する共通の悩みや解決策を探る。

不登校の生徒への支援システム

- 日本の教育者が「不登校」問題を解決するため、より積極的な取り組みを行っている。

日韓教師の交流

- 教育方法や生徒指導法についての深い対話
- 様々な教育方法や文化の違いを直接体験し、教育者としての視野を広げる。

アクションプラン

日本およびタイの姉妹校との交流プログラムに適用

- 姉妹校の訪韓・訪問及び文化体験プログラムをさらに充実させる。
- 学生会及び一般生徒がより多く参加できるようにプログラム構成

職場の教師と経験を共有

- 研修経験として学校内で共有し、学校教育に生かせるように協力する。

グローバル教育の強化

- 生徒中心の交流の活性化
- 国際的な視野を広げるための多様なプログラムを用意